

倶多楽

1 概況

上空からの観測では、日和山や地獄谷で弱い噴気活動と、大湯沼では湯溜まりの状態が続いていました。特に異常は認められませんでした。

2 上空からの観測結果

倶多楽火山は数万年前に大規模火砕流を伴う軽石噴火を繰り返し、直径 3 k m の円形のカルデラを生じました。その後、倶多楽火山の西麓で火山活動が起こり、地獄谷・大湯沼の爆裂火口が開き、さらに日和山溶岩円頂丘が形成され、現在も活発な噴気活動が続いています。1992 年（平成 4 年）に札幌管区気象台が実施した機動観測によると、地獄谷・日和山・大湯沼では活発な噴気活動や熱泥噴出、沸点程度の地熱や水温が認められています。

5 月 7 日と 24 日に北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、日和山や地獄谷では噴気活動が続き、大湯沼では全面湯溜りの状態が続いていました。



日和山上空から見た大湯沼



南東上空から見た日和山山腹の地熱域



西上空から見た地獄谷の地熱域